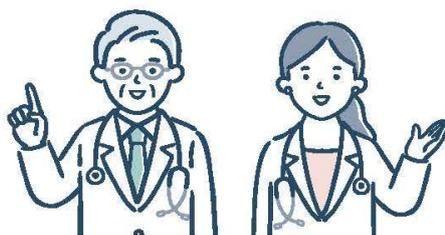


『HPV感染症を 皆で学ぼう』



第1回

2025年8月8日（金）オンライン開催

『HPV感染症とHIV感染症：現状と展望』

『HPV感染の制御とHPV予防ワクチンの男女平等接種』

第2回

2025年10月26日（日）東京会場

『HIV診療におけるHPV関連ガン：肛門がんを中心に』

『HPVワクチンの男性に対する接種の考え方』

第3回

2025年12月6日（土）熊本会場（第39回日本エイズ学会
学術集会・総会会場）

『HIV感染者におけるHPV関連癌の課題と展望』

『高リスク集団におけるHPVワクチン接種の現状 — HIV-PrEP
利用MSMからの調査報告』

一般社団法人日本エイズ学会

MSD 医学教育事業『HPV 感染症を皆で学ぼう』セミナー

2025 年の 8 月から 12 月にかけて、計 3 回の『HPV 感染症を皆で学ぼう』セミナーが日本エイズ学会主催のもとで開催されました。

ヒトパピローマウイルス (HPV) は女性の子宮頸がんの原因となることが知られていますが、肛門がん、中咽頭癌の原因であることも明らかとなってきました。特に HIV 感染症の診療の場において、併発するリスクを念頭に置くことが必要です。本セミナーでは HIV 診療の中での HPV の予防・診断、そして治療について、専門とする先生方をお迎えしてご講演をいただきました。HPV 予防と関連疾患の治療について、今我々ができること、今後すすめていくことを皆様と一緒に考えていただく機会となれば幸いです。

一般財団法人 日本エイズ学会

日本エイズ学会
MSD医学教育事業助成 HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業

『HPV感染症を皆で学ぼう』

開催日 **2025年8月8日(金)**
15:00-17:00

開催形式 **WEB開催**

対象 医師、看護師、薬剤師、検査技師、研究者
HIV診療とHPV感染予防・治療に携わる方など

定員 **200名**
参加費 **無料**

申し込み締切日: 8月7日(木)17:00まで

PROGRAM

- 15:00-15:05 挨拶 古賀 道子 (東京大学)
- 15:05-15:10 本セミナーの目的: 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)
- 15:10-15:40 『HPV感染症とHIV感染症: 現状と展望』 古賀 道子 (東京大学)
- 15:40-16:30 『HPV感染の制御とHPV予防ワクチンの男女平等接種』 川名 敬 (日本大学)
- 16:30-16:50 質疑応答
- 16:50-17:00 挨拶 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)

2025年10月24日(日)に開催される2025年12月6日(土)までの3回連続で開催される「HPV感染症を皆で学ぼう」セミナーの第1回は、2025年8月8日(金)に開催されます。本セミナーは、HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業の一環として開催されています。参加費は無料です。申し込みは、本ポスターのQRコードから行うことができます。主催: 一般財団法人日本エイズ学会

日本エイズ学会
MSD医学教育事業助成 HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業

『HPV感染症を皆で学ぼう』

開催日 **2025年10月26日(日)**
13:00-15:00

会場 **fabbit会議室 丸の内ホールA**
東京都千代田区丸の内1-8-1
丸の内フットボール場1階

対象 医師、看護師、薬剤師、検査技師、研究者、学校関係者
HIV診療とHPV感染予防・治療に携わる方など

定員 **120名**
参加費 **無料**

申し込み締切日: 10月23日(木)17:00まで

PROGRAM

- 13:00-13:05 挨拶 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)
- 13:05-13:10 本セミナーの目的: 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)
- 13:10-13:55 『HIV診療におけるHPV関連がん: 肛門がんを中心に』 安藤 尚充 (国立国際医療研究センター・国立国際医療研究センター)
- 13:55-14:40 『HPVワクチンの男性に対する接種の考え方』 谷口 健文 (千葉大学医学部附属病院)
- 14:40-14:55 質疑応答
- 14:55-15:00 挨拶 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)

2025年12月6日(土)に開催される2025年12月6日(土)までの3回連続で開催される「HPV感染症を皆で学ぼう」セミナーの第2回は、2025年10月26日(日)に開催されます。本セミナーは、HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業の一環として開催されています。参加費は無料です。申し込みは、本ポスターのQRコードから行うことができます。主催: 一般財団法人日本エイズ学会

日本エイズ学会
MSD医学教育事業助成 HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業

『HPV感染症を皆で学ぼう』

開催日 **2025年12月6日(土)**
18:50-20:20

会場 **熊本城ホール 第2会場 (3F 会議室A1)**
*第39回日本エイズ学会学術集会・総会会場

対象 医師、看護師、薬剤師、検査技師、研究者
HIV診療とHPV感染予防・治療に携わる方など

定員 **120名**
参加費 **無料**

PROGRAM

- 18:50-19:00 挨拶 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)
- 19:00-19:10 本セミナーの目的: 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)
- 19:10-19:40 『HIV診療におけるHPV関連がん: 肛門がんを中心に』 安藤 尚充 (国立国際医療研究センター)
- 19:40-19:50 『HPVワクチンの男性に対する接種の考え方』 谷口 健文 (千葉大学医学部附属病院)
- 19:50-20:00 質疑応答
- 20:00-20:20 挨拶 前田 賢次 (鹿児島大学・日本エイズ学会理事)

2025年12月6日(土)に開催される2025年12月6日(土)までの3回連続で開催される「HPV感染症を皆で学ぼう」セミナーの第3回は、2025年12月6日(土)に開催されます。本セミナーは、HIV感染症患者におけるHPV感染予防と関連疾患治療に関する教育事業の一環として開催されています。参加費は無料です。申し込みは、本ポスターのQRコードから行うことができます。主催: 一般財団法人日本エイズ学会

セミナーの詳細

第1回

2025年8月8日(金) オンライン開催

講演1: 古賀 道子 [東京大学 新世代感染症センター 感染症研究分野]

『HPV 感染症と HIV 感染症: 現状と展望』

講演2: 川名 敬 [日本大学 医学部 産婦人科学分野]

『HPV 感染の制御と HPV 予防ワクチンの男女平等接種』

本セミナーでは最初に古賀先生が HIV 診療におけるウイルスとしての HPV に関する基礎的内容、HPV 関連疾患の診断・治療について総論的に紹介していただいた。川名先生は産婦人科医で、HPV 関連疾患、特に子宮頸がんに対する治療と予防に関する第一人者であり、新し

い HPV ワクチンの開発なども精力的に行なっている。予防に関しては女性への接種のみならず男女平等接種によって子宮頸がんの発症をさらに減らすことができるというデータを紹介いただいた。

本講演要旨と今後の展望

- HPV感染症と発癌
高リスク型HPV 16/18 は発癌を起こす。
WHO 2030 target: 90-70-90を目標。
ワクチン、スクリーニング、前癌病変で早期治療。
- HPV感染症とHIV感染症
HIV感染者は、子宮頸がん、肛門癌などHPV関連がんのリスクが高い。
- HIV診療現場でできること
医療従事者・患者で情報共有。



古賀先生

HIV診療での対応

- ✓予防・教育のポイント
肛門癌・頭頸部癌・子宮頸癌・HPVワクチンについて情報共有する。
HPVワクチンをすすめる？
- ✓HPV関連疾患の診かた
女性は子宮頸がん検診をすすめる。
肛門癌・頭頸部癌のスクリーニングは今後の課題。
早期発見のためにも口腔内・頸部・肛門の診察を丁寧に。



古賀先生

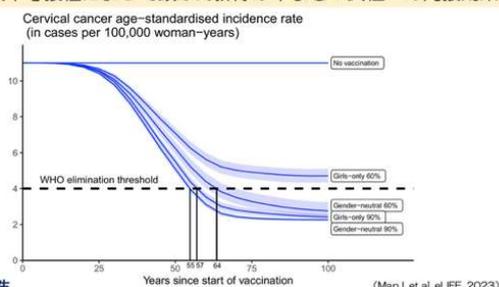
本講演の要旨

- ◆HPVワクチン定期接種の接種率は伸び悩んでいる。今一度、安全性をしっかりと伝える必要がある。
- ◆男性への定期接種化は、男性自身のHPV関連疾患の予防が確実に可能となる。さらに女性への間接効果が期待できる。
- ◆女性への定期接種率が伸びない国においては、男女への定期接種が有効なHPV感染予防戦略である。
- ◆低所得国を中心として、Global Healthの観点からはHPV予防ワクチンには限界がある。
- ◆免疫制御できない一部の感染者に対するHPV治療ワクチン投与によって、HPV感染を制御できることが、将来の予防法になる。

川名先生



男女平等接種によって頸がん排除が早まる：女性への間接効果



川名先生

第2回

2025年10月26日(日) 東京会場

講演1：安藤 尚克 [国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター (ACC)]

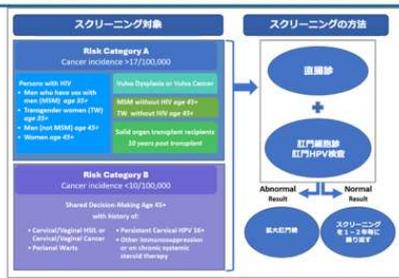
『HIV診療における HPV 関連ガン：肛門がんを中心に』

講演2：谷口 俊文 [千葉大学 医学部 附属病院]

『HPV ワクチンの男性に対する接種の考え方』

本セミナーからは HIV 診療における HPV 関連疾患、特に男性にも発症する肛門がんなど、診察室で遭遇する具体的な疾患と治療が話題となった。安藤先生は、まだ本邦では普及が進んでいない拡大肛門鏡による治療について、具体的な症例を示しながら紹介された。谷口先生は男性における HPV 感染症の概要と HPV 関連のガンとして、肛門がん、陰茎がん、さらに中咽頭がんなどへの HPV の関与、さらにワクチンによってそれらの発症が低下する可能性があるというデータを紹介された。

肛門がん：スクリーニングの流れ



安藤先生

谷口先生

本日のまとめ

- HPV関連疾患としては男性では中咽頭がんや尖圭コンジローマが特に問題、肛門がんや陰茎がんもある
- HPVワクチンの男性接種は尖圭コンジローマ、肛門がんなどHPV関連がんを有意に減少させる
 - 一方で中咽頭がんへの有効性などはエビデンスが揃っていない
- 費用対効果を考える必要がある
 - 尖圭コンジローマ・肛門がんの発生頻度のみを考えると、これのみでは cost-effective とは言えず、政策的に接種を進められない
 - 中咽頭がん（および影響は少ないが陰茎がん）、および女性への間接的効果などを踏まえた費用対効果分析を行うことにより、cost-effective と言えるようになるかもしれない
 - 日本人における基礎データ（性行動、男女間の感染確率等）が必要

第3回

2025年12月6日（土）熊本会場（第39回日本エイズ学会学術集会・総会会場）

講演1：水島 大輔 [国立健康危機管理研究機構 国立国際医療センター エイズ治療・研究開発センター（ACC）]

『HIV感染者におけるHPV関連癌の課題と展望』

講演2：塩尻 大輔 [パーソナルヘルスクリニック]

『高リスク集団におけるHPVワクチン接種の現状 — HIV-PrEP利用MSMからの調査報告』

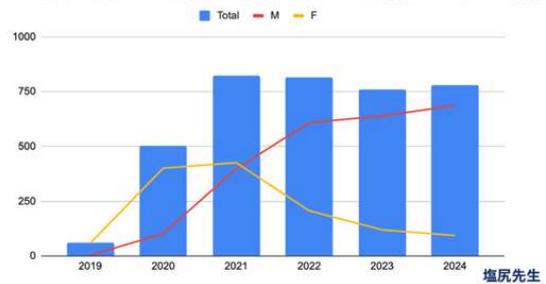
最終回となった本セミナーでは、水島先生が肛門がんを中心に、HIV感染者で問題となるHPV関連疾患の現状と最新の治療について幅広く紹介された。塩尻先生はクリニックでMSMへのPrEP（HIV薬の予防投与）などを精力的におこなっており、HPVワクチンの接種も積極的に進められている。講演では自身のクリニックでのHPVワクチン接種の現状、さらに患者様のHPV感染症やワクチンについての理解、考えなどについて詳しく説明いただいた。

HIV感染MSMの多くはHPV既感染であり、早期診断、癌予防をどうするか？

- 子宮頸癌では、細胞診、高リスクHPV検査で異常があれば、コルポスコピーによる早期診断および前がん病変の円錐切除の治療がスタンダード
- 肛門癌では、近年まで、早期診断および前がん病変の標準治療が存在しなかった
- 2022年にANCHOR studyにより、拡大肛門鏡（HRA）により診断された肛門前癌病変に対するablation等の予防の有効性が証明された
- 2023年にはIANS (International Anal Neoplasia Society)による肛門癌スクリーニングのガイドラインが公開

水島先生

PHCにおけるHPVワクチンの実績



塩尻先生

クリニックでのアンケート結果（一部）

質問	回答	HPVワクチンについて	
		MSM (%)	ヘテロ男性 (%) / ヘテロ女性 (%)
① HPVワクチンのことはご存知ですか？	よく知っている	31.1	21.1 / 45.4
	聞いたことはある	48.4	52.6 / 44.5
	知らない	19.3	25.9 / 9.2
② HPVワクチンは接種したことがありますか？	接種した・接種しているところ	19.9	13.9 / 36.1
	検討中	30.4	14.3 / 21.0
	接種する予定はない	49.1	70.9 / 42.0
③ HPVがんの原因となるウイルスであることを知っていましたか？	はい	36.0	30.3 / 63.9
	いいえ	37.9	42.6 / 21.0
④ HPVワクチンは男性にも効果があること、日本でも承認されていることを知っていましたか？	はい	36.6	21.9 / 42.9
	いいえ	43.5	59.0 / 38.7

塩尻先生

塩尻先生

アンケートのまとめ

ワクチン接種を阻む2つの壁：「費用」「情報不足」

① 費用の不安：費用が高いと29.7%が挙げ、自由記述でも費用負担の懸念が強く示された。費用の補助や無料化は、接種率向上のための最優先事項だと考えられる。

② 情報不足：「情報が少ない」（23.5%）、「副反応が心配」（20.4%）が大きな懸念であり、接種済みの方の7割が「副反応はとくになかった」という事実を積極的に広報し、正確な情報に基づく啓発活動を強化することが重要。

最後に

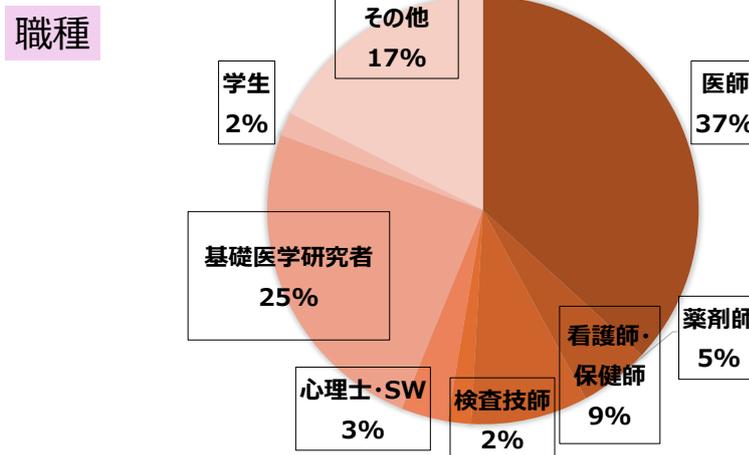
本事業では3回のセミナーで6名の専門家からの講演をいただきました。参加者は医師・看護師などの医療従事者に加えてウイルスの基礎研究者など多岐にわたり、それぞれが自身の専門領域で何をすべきか、という観点から熱心に聴講いただきました。現地開催のセミナーでは講演終了後も発表者に対して質問をされる方も多く、本領域に対する関心の高さが窺われました。またセミナーの前後で皆様にアンケートに答えていただきました。セミナーへの参加によって HIV 診療の領域、さらにはそれ以外でも HPV ワクチンによる関連疾患予防の重要性に対する認識の度合いが増したとする意見が多くみられました。一方で施設や患者様によってはワクチンの副作用などへの不安もみられましたが、これに対しては担当医師からの現在わかっていることを丁寧に説明することが重要と思われます。

今回のセミナーが今後の皆様の診療や研究の一助となることを願っております。

担当：前田 賢次（鹿児島大学）

本日で参加の皆様へのアンケート

アンケートにご協力いただきありがとうございました。

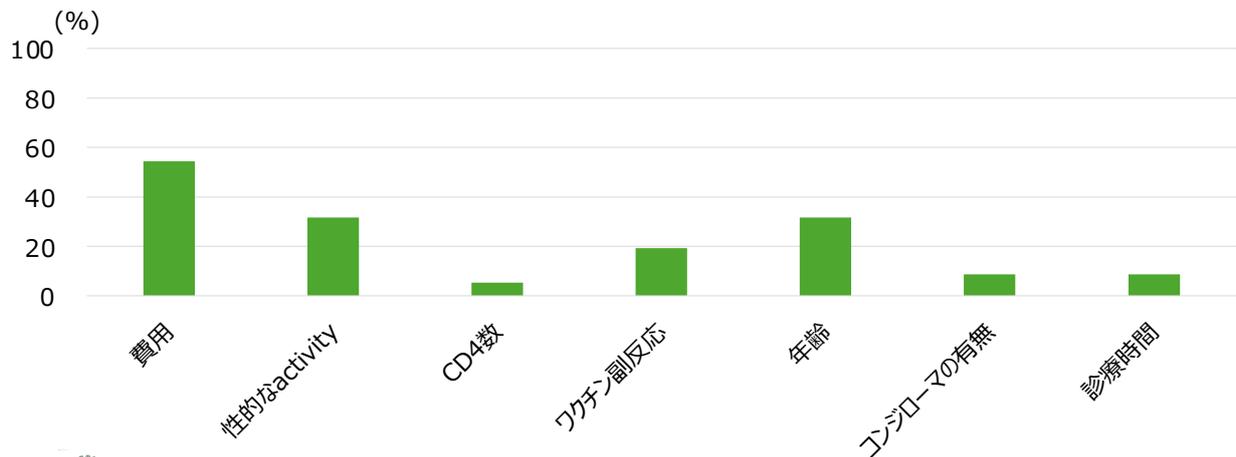


本日で参加の皆様へのアンケート

現在、HIV診療に従事している方のみ抽出 質問項目	%
HPV予防ワクチンを女性患者様（キャッチアップ接種）へ勧めておられますか？	47
HPV予防ワクチンを女性患者様へ接種したことがありますか？	18
HPV予防ワクチンを男性患者様へ勧めていますか？	59
HPV予防ワクチンを男性患者様へ接種したことがありますか？	24

本日まで参加の皆様へのアンケート

HPV予防ワクチン男性接種を勧める際に、考慮している事項をご回答ください（複数回答可）。



本日まで参加の皆様へのアンケート

HPV予防ワクチン男性接種を勧める際に、考慮している事項をご回答ください（複数回答可）。
現在、HIV診療に従事している方のみ抽出。

